

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	老年看護実践論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2学年		学期及び曜時限	後期	教室名	新館2・3階
担 当 教 員	竹田知美 柏原 弘子	実務経験と その関連資格	消化器内科病棟・市立病院消化器外科病棟14年勤務・専任教員10年 看護師として病院、施設で19年勤務 教育機関で10年以上勤務			
《科目目標》						
事例を通じて老年期にある健康障害を持った対象の健康上の問題を抽出し、問題解決に向けた看護が実践できるための看護計画を立案し実践することが出来る。						
《成績評価の方法と基準》						
【評価方法】課題レポート点(60%)と技術演習評価点、授業態度(40%)を含め合計100点満点で評価する。 但し、レポートの内容と提出期限に間に合わない場合については減点する。						
【評価基準】優:80点以上、良:70点以上80点未満、可:60点以上70点未満、不可:60点未満						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
堀内ふき・大淵律子 ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害 MCメディカ出版 (デジタル版) 堀内ふき・大淵律子 ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践 MCメディカ出版 (デジタル版) 長谷川素美 ナーシング・グラフィカ 成人看護学④ 周手術看護 MCメディカ出版 (デジタル版)						
《授業外における学習方法》						
予習・復習を行い授業に出席する。事前課題は必須						
《履修に当たっての留意点》						
①既習学習(老年看護学概論、高齢者の健康を支える看護、高齢者の健康障害と看護)を活用する。 ②成人老年看護学実習にむけて、高齢者の特徴と予備力の査定から看護上の問題を考える。 ③②を踏まえ看護過程の展開を通して、必要な看護が実践できるように主体的に学習に取り組む。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	老年期の発達と課題が理解できる		シラバス 老年看護学① P.18-85 老年看護学② P.20-301 講義資料	教科書の該当箇所を読み、予習して授業に臨む	
	各コマにおける授業予定	老年看護学の復習(老年期とは、発達課題、老年期の加齢に伴う変化、疾患の特徴と看護)				
第2回	授業を通じての到達目標	事例のアセスメントに必要な知識を身につけることができる		成人看護学④ P.290-293 講義資料	大腿骨頸部骨折について病態、診断、治療について事前学習しておく	
	各コマにおける授業予定	アセスメントに関する講義(病態・検査・治療の理解)				
第3回	授業を通じての到達目標	アセスメントツールに基づいて情報整理・分析が出来る		成人看護学④ P.290-293 講義資料	生活歴 フェイスシート ヘンダーソンの14項目の視点において情報分類し、アセスメントしておく	
	各コマにおける授業予定	アセスメント(フェイスシート、発達課題と生活歴、ヘンダーソン14項目)				
第4回	授業を通じての到達目標	関連図の書き方について(講義) アセスメントツールから情報の分析が行える		成人看護学④ P.290-293 講義資料	ヘンダーソンの14項目の視点においてアセスメントしておく	
	各コマにおける授業予定	アセスメント(ヘンダーソン14項目)				
第5回	授業を通じての到達目標	関連図の書き方について(講義) アセスメントツールから情報の分析が行える		成人看護学④ P.290-293 講義資料	ヘンダーソンの14項目の視点においてアセスメントしておく	
	各コマにおける授業予定	アセスメント(ヘンダーソン14項目)				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	関連図を完成し、優先度の高い看護問題が抽出できる	成人看護学④ P.290-293 講義資料	関連図を完成し、看護問題を抽出しておく
		各コマにおける授業予定	関連図を作成し、看護問題を抽出できる		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	考えられる看護問題に対して看護計画を立案し、援助計画を考えることができる	成人看護学④ P.290-293 講義資料	看護計画を立案しておくこと
		各コマにおける授業予定	看護問題に着目して、個別性のある援助計画を立案する		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	〈演習(実習室)〉 看護計画に基づき、必要な援助を実施し、評価できる	成人看護学④ P.290-293 講義資料	看護計画を立案し、行動計画を立案しておくこと
		各コマにおける授業予定	看護計画に基づいて援助を実施して、評価することができる		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	〈演習(実習室)〉 看護計画に基づき、必要な援助を実施し、評価できる	成人看護学④ P.290-293 講義資料	看護計画を立案し、行動計画を立案しておくこと
		各コマにおける授業予定	看護計画に基づいて援助を実施して、評価することができる		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	パーキンソン病患者の看護問題が分かる	老年看護学② P.203-208	パーキンソン病について疾患、治療、看護の学習を事前に実施する
		各コマにおける授業予定	①転倒転落アセスメントシート②ブレードンスケール③主観的包括栄養評価(SGA)④認知機能評価(MMSE、HDS-R)から予備力を査定できる。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	パーキンソン病患者の看護問題が分かる	教科書	アセスメントシートを完成し次回提出 次回授業までに関連図完成し授業後に提出
		各コマにおける授業予定	事例患者の全体像を把握する。(アセスメントシート) 健康障害から潜在問題、顕在問題を考える。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	関連図を完成し、看護上の問題が抽出でき、優先度を考える	教科書	関連図を完成し授業後提出
		各コマにおける授業予定	関連図を作成し、看護問題を抽出できる		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護上の問題に対し看護計画、援助計画を考えることができる	教科書	①②の視点で看護計画を立案する ①②の具体的援助計画を立案する
		各コマにおける授業予定	看護問題から個別性のある看護計画、援助計画を立案する。 ①生活上の問題 ② リスク回避		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	〈演習(実習室)〉 看護計画に基づき、必要な援助を実施し、評価・修正できる	教科書	看護計画、援助計画を立案し演習に参加
		各コマにおける授業予定	看護計画の目標、看護計画と援助計画の違いと繋がりが理解できる。計画の評価から看護計画を見直し修正できる。		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	〈演習(実習室)〉 看護計画に基づき、必要な援助を実施し、評価できる	教科書	看護計画、援助計画を立案し演習に参加
		各コマにおける授業予定	看護計画の目標、看護計画と援助計画の違いと繋がりの理解ができる。計画の評価から看護計画を見直し修正できる。		